

漂着物の調査 開催報告

開催日 2020年6月27日 (土)

参加人数 14名 (子ども 7名、大人 7名)



1. 浜松海岸における海ごみの現状

講師 Hamamatsu-浜松の海を守る会 清水浩利氏
漂着ごみの現状と問題、生物への影響や私たちにできることを説明いただきました。



2. 漂着ごみの調査 (4グループに分かれて分別作業を行った)

調査ごみの量 約14kg
回収場所 馬込川右岸

| ごみ調査 データカード | | 2020年6月27日(土) | 場所 | 回収 |
|-------------|----|---------------|----|-----|
| 品名 | 数量 | 重量 | 種類 | 備考 |
| プラスチック類 | 29 | 5.0 | 1 | 24 |
| 発泡スチロール | 1 | 1 | 1 | 25 |
| 紙類 | 1 | 1 | 1 | 26 |
| 食品容器 | 1 | 1 | 1 | 27 |
| その他 | 1 | 1 | 1 | 28 |
| 合計 | 33 | 8.2 | 5 | 100 |

<調査結果>

- 1位 プラスチックや袋の破片 497
- 2位 発泡スチロール破片 208
- 3位 食品容器 (発泡スチロール) 81
- 4位 硬質プラスチック 79
- 5位 飲料用プラスチック 68

※水産・釣り関係 42
生活雑貨 (歯ブラシ・文房具等) 59



3. マイクロプラスチックについて考える

海ごみの現状やごみの分別体験を行った後、参加者が考える海について「ぬりえ」を通して家族で考えました。



調査の終わったごみは、指定袋に入れました。
ごみを出す時には袋が破れないよう注意する事。また、しっかり縛って封をしましょう。
ごみ袋の空気を抜いて出しましょう。収集される時の飛散防止も大切です。

<参加者の声>

- ・漂着物の問題は、マスクゴミでもよく聞いているが、浜松近辺の状況を知ることができた。
- ・2050年にはごみの数は魚の数より多くなるとのことに驚かされた。
- ・実際に漂着物の内容を見ると、色々な種類のごみの実態を把握できた。
- ・各自ができることは何かを考えて、ごみ問題の改善に協力していきたい。